

品種別 生産経過

【極早生種】 タマキ・日川・赤宝等

生育は前年比 5 日程度の進み。摘果作業の遅れ、5 月～6 月の少雨が影響し、全体的に小玉傾向となった。昨年も小玉傾向であったが、さらに下回る園地も散見された。また、秘味黄金の有袋栽培では、7 月下旬の多雨による果頂部の裂果と高温障害による赤道上部の軟化が見られた。(数量 昨年比 78%)

【早生種】 白鳳・あかつき等

生育は前年比 3～5 日程度の進み。梅雨明けは 7 月 10 日と早く、7 月下旬以降は連日真夏日を記録し日照時間も平年を大きく上回った。(8 月上旬平年比 145%) 核割れ等から異常成熟果も散見されたが、収穫期の高温・少雨で成熟進度が緩やかになり、全体的に収穫ロスは少なかった。肥大は極早生種と比べれば回復したが、園地によって小玉傾向であった。昨年発生した縫合線裂果は、少ない傾向であった。(数量昨年比 白鳳 73%、あかつき 109%)

【中生種】 なつっこ等

生育は前年比 2～3 日程度の進み。8 月に入り高温が続き糖度は上昇、生育はやや停滞した。南部はお盆前に収穫ピークを迎え、北部はお盆中にピークとなったため、8 月中旬の降雨によるロスは少なく抑えられ、また、果実肥大も回復した事から出荷量は昨年を大きく上回った。(数量 昨年比 113%)

【晩生種】 川中島白桃・黄金桃等

生育は前年並～3 日程度の進み。園地差はあったが、生育が停滞した園地が多かった。お盆前までは順調に生育したが、8 月 25～26 日に台風が襲来しスレや打撲によるロスが発生。以降、9 月上旬まで降雨・曇天が続き(平年比降水量 120%、日照時間 50%)、糖度や食味に悪影響を及ぼした。特に、川中島白桃の未熟果の選果落ち(糖度不足)が散見され、収穫熟度に課題を残した。また、黄金桃はせん孔病による被害が昨年よりも少なかったが、降雨の影響で「こうあ部(軸部)」の軟化ロスが散見された。(数量昨年比 川中島白桃 107%・黄金桃 100%)

【極晩生種】 白根白桃・ゴールデンピーチ・黄貴妃等

生育はほぼ前年並。晩生種同様に降雨・曇天が続き、糖度が低下。せん孔病による被害は昨年よりも少ない傾向であったが、灰星病等の腐敗性病害によるロスが散見された。

【ネクタリン】 サマークリスタル・ファンタジア・秀峰等

ももと同様に、極早生種のサマークリスタルは昨年比 5 日程度生育が早まり、小玉傾向であった。裂果や核割れも散見されたが、せん孔病被害によるロスは昨年よりも少なかった。スイート系ネクタリンの枯死が散見されており、出荷量がなかなか増えない状況が続いている。

晩生種では前年並～3 日程度の進みに落ち着いた。灰星病等の腐敗性病害によるロスが散見された。

【病害虫発生状況】

- ・ 4月下旬から、縮葉病が発生。(黄金桃・ネクタリン等)
- ・ 5月上旬から、せん孔細菌病の春型枝病斑を確認。6月上旬には葉病斑が発生し始め、果実感染が心配されたが、梅雨期の降水量が少なく、全体的には昨年よりも被害は少なかった。
- ・ 6月下旬から、ハダニ類の初発を確認。8月上旬には多発園も散見。
- ・ 8月下旬から、降雨・曇天が続き、晩生～極晩生種に灰星病等の腐敗性病害が発生。
- ・ 園地によって、カイガラムシ類の被害が発生。

【枯死・樹勢衰弱】

冬季の低温は -10°C 以下を 17 日記録した。3月下旬以降の気温上昇・寒の戻りは、ここ数年同じような気象経過となっている。本年も若木の枯死、開花期以降の樹勢衰弱(葉色が薄い)が散見されており、成園化が進まない園地も多い状況である。

【次年度への課題・対策】

◆糖度アップに向けた栽培管理と収穫熟度、品種構成の見直し

本年、新選果機が導入され糖度と着色による等級選別が明確になった一方で、糖度の基準はクリアしていても地色の残る果実や、見た目は良くても糖度が足りない果実が散見された。本年の結果を踏まえて、平均糖度の高い園地、低い園地の栽培面や収穫熟度等の傾向を分析し、次年度に繋げていきたい。

◆品種動向

- ・ 極早生種・白鳳系は、老齢化・他品種への更新等により栽培面積減少。
- ・ 「あかつき」「なつっこ」は、他品種からの更新で導入した苗木の成木化により数量増加。
- ・ 「川中島白桃」「黄金桃」は、ともに老齢化が進んでいるため更新による生産量維持を図りたい。
- ・ 極晩生種は、白根白桃が中心であるが糖度・日持性に優れる「さくら」等の導入を図りたい。
- ・ ネクタリンは、お盆前後の数量が少ないためシリーズ化を図りたい。

◆凍害対策、胴枯れ対策

- ・ 冬季の防寒はワラ巻きが最も効果的であり、幼木～若木(5～7年生まで)は徹底する。
- ・ せん定の切口の保護(切口の癒合を促進し、枯れ込みを防止する)
- ・ 耐凍性台木の試験的導入を進める。
- ・ 土壌の物理性の改善。(土壌団粒化、排水対策)

◆病害虫対策

本年の発生を踏まえて、次年度防除暦を中心に総合的な防除を実施する。

- ・ せん孔細菌病 ・ ・ 秋季のボルドー散布、春型枝病斑の除去、定期散布(特別散布)、袋掛け、防風ネットによる防除を再確認する。

◆品質向上対策

- ・ 着色向上、果面保護、カイガラムシ類対策として、防虫袋や二重袋の導入を進める。
- ・ 高温対策として、白色マルチ(タイベック・パールライト等)の普及拡大。